

## かながわ文化芸術振興計画に基づく評価について（案）

### 1 かながわ文化芸術振興計画（以下「計画」という。）の評価について

#### （1）毎年度の進行管理

新かながわグランドデザインで設定したKPIや年次報告書に基づく事業の実施状況を神奈川県文化芸術振興審議会に報告。実績から達成状況を判定し、事業改善の検討を行う。

#### （2）中間評価

計画の4年目（令和9年度）に、アンケートや、関係者への聞き取り、毎年の進行管理を受けて改善した事項等により定性的な評価を行うとともに、3年間の実施状況の定量的評価を行うことにより計画の達成状況の分析、課題の抽出を行い、次期計画の改定に向けて評価結果を反映する。

#### （3）最終評価

計画が終了した翌年度（令和11年度）に、目標値の達成状況により計画の達成度の分析を行う。

次期計画の進行管理について議論を行う。

### 2 評価項目の設定について

3年間の実施状況の中間評価に向けて、重点施策ごとに1項目程度を評価項目として選定したい。

なお、重点施策に位置付けた事業の令和5年度の実施状況は別紙のとおり。

#### （1）重点施策1 地域の伝統的な文化芸術の保存、継承、活用

目指す方向性 伝統文化と温かいコミュニティが息づいている、かながわへ

##### ア 評価項目（事務局案）

##### （ア）ワークショップ等の取組について

①ワークショップ等の実施状況、参加者の状況・属性等

②ワークショップ等の参加者の意見（アンケート、聞き取り等による（以下同））

（理由）伝統的な文化芸術の保存と活用に向けた、伝統芸能及びその価値を知ってもらう取組のうち、喫緊の課題である次世代を担う継承者の育成に焦点を当て、特に体験学習の取組を抽出し、体験機会の提供及び普及啓発の進捗状況を把握する。

##### （イ）伝統芸能事業の発表・鑑賞機会の取組について

①伝統芸能事業の実施状況、鑑賞者の状況、属性等

②伝統芸能の担い手、伝統芸能事業の参加者の意見

（理由）計画の取組内容「文化財や伝統的な芸能などを活用した文化芸術の発信」の達成のため、市町村や学校と連携して、各地域の伝統的な芸能の発表・鑑賞の機会を充実させることができているかを把握する。

##### イ 現在実施しているアンケートの共通項目

満足度、イベントを知った経緯、自由意見

※ 年代については報告書等から集計することは可能

##### ウ さらに検討の視点

伝統芸能に関わる人材の育成の検討に資する内容（さらに自ら学んでみよう、継続して参加しよう等の意識）を把握できる項目、方法はあるか。

(2) 重点施策2 子ども・若者の文化芸術活動の充実等  
 目指す方向性 豊かな人間性・創造性をはぐくむ、かながわへ

ア 評価項目(事務局案)

子ども・若者を対象とした文化芸術の鑑賞機会や体験事業の取組について

- ①子どもを対象とした文化芸術の鑑賞・体験事業の実施状況、参加者の状況・属性等
- ②青少年を対象とした文化芸術の鑑賞・体験事業の開催状況、参加者の状況・属性等
- ③子ども・若者向け事業の参加者の意見
- ④子ども・若者向け事業の講師等の意見

(理由) 計画の取組内容「子ども・若者の体験機会の確保・充実」の観点から、文化芸術の次世代を担う若年層の育成に向け、子ども・青少年が、文化芸術を身近に感じ、感性や想像力を育める場の確保に焦点を当て、鑑賞機会や体験事業の取組を抽出し、体験機会の確保の進捗状況を把握する。

イ 現在実施しているアンケートの共通項目

満足度、イベントを知った経緯、自由意見

※ 年代については報告書等から集計することは可能

ウ さらなる検討の視点

事業が子ども・若者が文化芸術に親しむきっかけになっているか（継続して参加しよう、事業への参加をきっかけに舞台芸術活動（出演、習い事、体験活動への参加等）を始めよう等の意識）を把握できる項目、方法はあるか。

(3) 重点施策3 共生社会の実現に向けた高齢者・障がい者等の文化芸術活動の充実等  
 目指す方向性 あらゆる人が文化芸術に触れられ、いのち輝く、かながわへ

ア 評価項目(事務局案)

(ア) 高齢者・障がい者等を対象とした文化芸術の鑑賞機会や体験事業の取組について

- ①高齢者・障がい者等を対象とした文化芸術の鑑賞・体験事業の実施状況、参加者の状況・属性等
- ②共生共創事業(狭義)の鑑賞者、出演者の意見

(理由) 年齢や障がいに関わらず誰もが文化芸術を鑑賞、参加、創造できる環境づくりに向け、生活地域での文化芸術体験に焦点を当て、鑑賞機会や体験事業の取組を抽出し、鑑賞機会、体験機会の確保の進捗状況を把握する。

(イ) 参加者の意識の変化について

- ①出演者の体や心が元気になったと感じた割合
- ②共生社会の実現が必要と感じた割合
- ③共生共創事業にインターンシップ等で参加した学生の意見(参加して、高齢者・障がい者を見る目が変わったかなど)

(理由) 文化芸術が身近にあることで人と人との結びつき、相互理解の深まりなど、共生社会の実現に向けた取組のうち、意識の変化に焦点を当て、参加者の心身の状態を抽出し、文化芸術による意識の変化を把握する。

イ 現在実施しているアンケート項目

満足度、身体や体調の変化、心や気分の変化、共生社会の実現を必要だと感じるか、共生共創事業という言葉を知っているか、自由意見、今後参加したいワークショップのジャンル

### ウ さらなる検討の視点

共生社会の実現に向けて、事業に参加した人が事業に参加したことによって意識の変化があったかを把握できる項目、方法はあるか。

## (4) 重点施策4 国際・観光分野との連携

目指す方向性 様々な交流が生まれ、魅力あふれる、かながわへ

### ア 評価項目(事務局案)

国際交流事業・公演の取組について

①国際交流事業・公演の実施状況、参加者の状況・属性等

②国際交流事業・公演の鑑賞者、参加者の意見

(理由) 計画の取組内容「多文化理解の推進」の達成に向け、日本語を母語としない方等にも事業・公演の体験機会を提供できているか、事業に参加したことで多文化共生に対する意識が変化したかを把握する。

### イ 現在実施しているアンケート項目

満足度、自由意見

※ 年代については報告書等から集計することは可能(確認中)

### ウ さらなる検討の視点

事業に参加していない外国籍県民に参加を促すため、事業に参加していない外国籍県民が県に何を求めているのかを把握できる項目、方法はあるか。

## (5) 重点施策5 文化芸術の振興を推進するための環境整備

目指す方向性 ハードとソフトの両方から、文化芸術の環境が整った、かながわへ

### ア 評価項目(事務局案)

(ア)人材育成事業について

①県立文化施設で育成した文化芸術を担う人材の数(計画期間中の累計)

②実施した人材育成研修の分野

③人材育成事業の参加者に対するアンケート調査の自由意見

(理由) 計画の取組内容「施設の機能としての人材育成」を達成するため、各地の文化施設から職員等の受入れ等を通じて、舞台施設運営や意見交換、研修等を継続的に行い、レベルアップした文化芸術人材をこれまで以上に増やしていくことを目指す。

(イ)施設の利便性の向上について

○利用者の利便性向上に向けた施設としての取組

(理由) 計画の取組内容「県立文化施設の計画的な維持・保全・拡充」を達成するため、県立文化施設について、修繕・改修の実績ほか、DXを活用した取組やバリアフリー対応などの状況を把握する。

### イ 現在実施しているアンケートの共通項目(人材育成事業)

満足度、自由意見

※ 年代については報告書等から集計することは可能

### ウ さらなる検討の視点

プロフェッショナル人材になることを目指す参加者がどのようなものを求めているか、実践的な内容を提供できているかなどを把握できる項目、方法はあるか。